

「国境離島の保全、管理及び振興のあり方に関する有識者懇談会」
報告レジュメ

2013年10月7日

久保文明

1. 「国境離島の保全、管理及び振興」を推進しようとする政策の意図について
実力による現状の変改、既成事実の積み重ねか、
単に現状を維持しようとする努力か。

2. 教育との関連で

とくに中学・高校レベルにおける地理、公民、政治経済などの教科書において。日本にとって、海洋と、その権利主張の基礎となる国境離島、およびその保全・管理・振興の重要性を十分に教える。とくに、領海・排他的経済水域の面積でみた場合の日本の「広さ」。あるいは海岸線延長が世界第6位であることなど。教科書にわかりやすい地図を掲載してもらうことはその第一歩。さらに、資源、漁業などにとっての重要性について丁寧に解説する。

「離島の生活」とその苦勞などについての記述も設ける。

国境離島の多様なあり方についても、例示しながら解説する。

3. 国境離島の位置や性格による異なったアプローチ

環境保護の視点から

一部の国境離島は、人間がほとんど足を踏み入れない場所であることに注目して、いわば自然保護の聖域(サンクチュアリー)とする。ただし、定期的な観察は必要。自然保護関係のNGO、大学、各種の研究所、あるいは漁業関係者などと連携して、定期的な観察を行うと同時に、自然を保護する(人間の立ち入りや活動を一定程度制限する)。長期にわたる生態系についての観察が可能になる。同時に、島の監視も行う。

観察を行う権利、管理・監視を遂行する義務などに対して、政府が一定の補助金を支出してもよいのではないか。

観光の振興の観点から

一部の国境離島は、年間を通じて、あるいはその一時期、観光に適している。そのような島には、レクリエーション施設やアクセスの建設を推進する。資金は、適宜、国、自治体、民間による。むろん、自然保護には十分配慮し、規制され、制限された観光を奨励する。それによって、国境離島の振興を図るとともに、その重要性について、国民の理解を深める。

ボランティアの協力

前二者の中間的形態。国境離島保全のためのさまざまな労働を提供するとともに、自然を傷つけない範囲で自然を楽しむ。NGO、地方自治体、および政府の協力によって可能になるのでは。たとえば政府は一定の補助金を提供、NGOがボランティアの募集や作業についてのガイダンスを提供するなど。

自衛官の駐在効果

一部の国境離島は安全保障上の重要性をもつ。地元コミュニティの活性化に対する貢献という点でも重要。防衛目的のみならず、国境離島経済・社会に対する刺激という観点も考慮すべき。

4. 啓蒙活動の強化

上記すべての点と関連して、国境離島の重要性について、国民に対する啓もう活動を強化する。毎年、それを集中的訴える期間(数日から1週間程度)を設けてもよいのではないか。その他、財政的な措置も必要であろう。